

H17年度厚生労働科学特別研究における研究の概要 (主任研究者：岸本卓巳)

1 人口動態統計を利用した実態調査

平成15年に人口動態統計上、中皮腫で死亡したとされている878例について追跡調査を行い、石綿曝露との関連について検討する。

【調査項目】

878例の年齢、性別、住所（都道府県）、職業歴、発見契機（健診か否か）、自覚症状、喫煙歴、診断根拠、発生部位、組織型、ステージ（TNM分類 IMIGによる）、治療内容と予後

【遺族への調査】

亡くなった方の職業歴を明らかにするために、遺族に対して、職業歴や生活環境に関するアンケート調査を実施。同時に、医療記録の使用に関する承諾を得る。

【検討項目】

- 1) 都道府県別分布に対する男女比と年齢別検討
- 2) 職業内容の分析と石綿曝露率の検討（男女と年齢別検討）
- 3) 原発巣別の自覚症状
- 4) 発見契機：健診か、自覚症状か、他疾患フォロー中等
- 5) 診断根拠（手術、剖検、細胞診、画像等）、組織検査率と組織型の検討
- 6) アスベスト曝露の根拠
 - ① 画像診断 胸膜プラーク、石綿肺、円形無気肺、びまん性胸膜肥厚の有無
 - ② 石綿小体数の検討
 - ③ 画像診断、石綿小体数、職業歴に対する年齢、性別、都道府県別検討
- 7) 予後調査
 - ① 治療内容、病期、年齢、性別による予後の検討
 - ② 有効な治療方法の検討
- 8) 労災申請、労災補償と石綿健康管理手帳の発給の有無調査
- 9) 中皮腫発生と環境ばく露の影響についての検討

2 現在治療中の方の症例収集

厚生労働省関連の国立病院機構および労働者健康福祉機構の病院ネットワークを中心として、現在治療中の中皮腫患者について上述の1)～9)の項目について検討する。特に、石綿ばく露との関連について、より詳細な職業歴、居住歴などを担当医を通じて調査する。